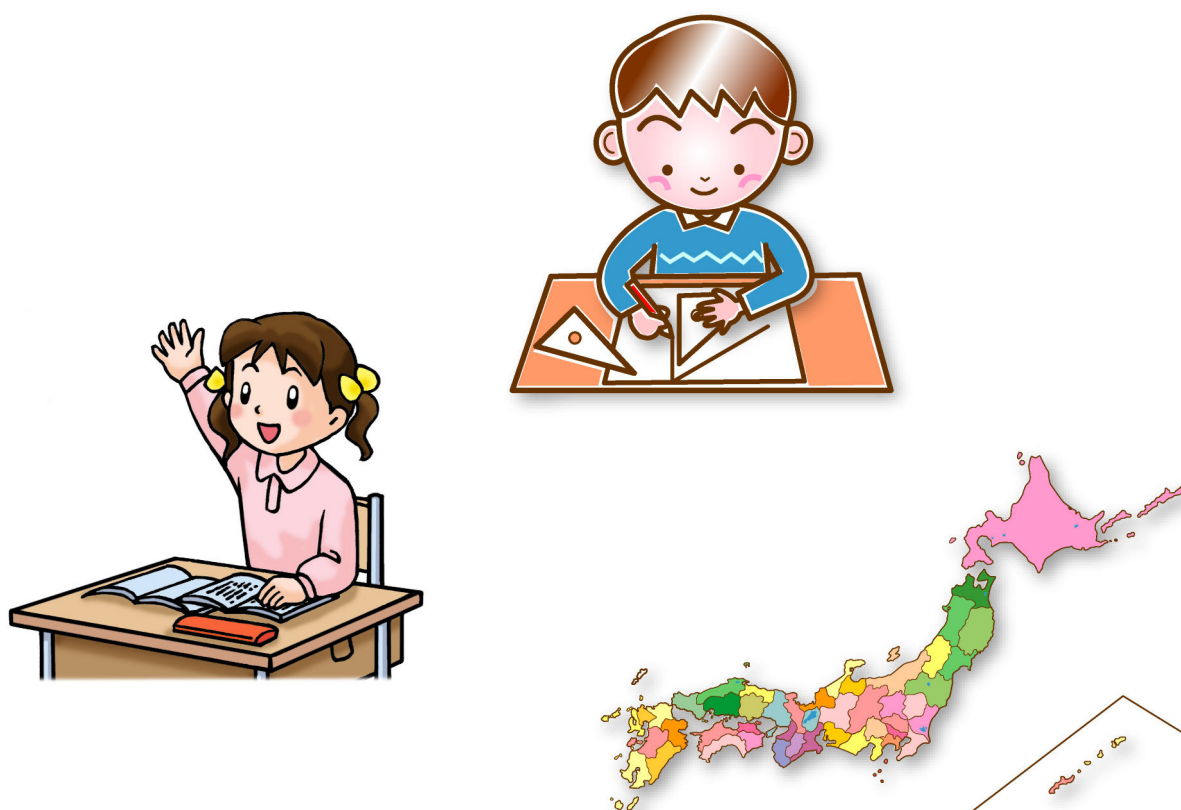


学習のてびき



鹿屋市立第一鹿屋中学校

1年	組	番	氏名	
2年	組	番		
3年	組	番		

◆ 目 次 ◆

はじめに	1
充実した学習 意欲的な学習	1
1 学習意欲を高めよう	1
2 授業に集中しよう	2
3 家庭学習に継続して取り組もう	2
4 不得意教科を克服しよう	3
5 ノートの書き方を工夫しよう	3
6 積極的に発表しよう	4
7 テストを真剣に受けよう	4
8 テストの結果を日々の生活に生かそう	5
学習の心得 10ヶ条	6
各教科の学習のしかた	
国 語 科	7
社 会 科	8
数 学 科	10
理 科	11
英 語 科	13
音 楽 科	14
美 術 科	15
保健体育科	17
技術・家庭科	19

はじめに

この『学習のてびき』は、中学校での学習への取り組み方はもちろん、教科ごとの学習法が書いてあります。例えば、不得意教科はどのように取り組んだらいいのか、今までの学習で改めることはないのか、など自分自身の弱点や不十分な点を改善することもできるでしょう。

また、学習の定着には、学習環境や学習計画、生活態度なども大きく影響します。これらのこともしっかり読み取って、能率的に学習ができるように心がけてください。

これからの社会では、常に学び続ける姿勢が大切になっていきます。それらはすぐに身につくものではありません。日頃から自主的に、主体的に学ぼうとすることが大切であり、受け身の姿勢、指示を待っていては、学力は身につけません。中学校の学習の全体を通して、生涯学び続けていく意欲や態度、学び方を身につけていきましょう。

みなさんが、この手引書を十分に活用して、将来の自分の生き方を見つめながら、主体的に学習する意欲や態度を身につけていくことを期待しています。

充実した学習 意欲的な学習

1. 学習意欲を高めよう。

学力と学習意欲との間には、深いつながりがあります。

次のようなことに気をつけ、意欲的で積極的な学習ができるように心がけましょう。

(1) 具体的な学習目標を立てる。

例えば、「毎日3時間は宅習をする。」「英単語を毎日5つずつ覚える。」「授業中に最低1回は発表する。」「新出漢字を毎日100字ずつ練習する。」などのように、具体的に目標を決めると、日々の努力に意欲がわいてきます。

「何を」「どのくらい」「どうする」と、いうように行動で示すとより具体的な目標になるでしょう。

(2) 学習計画を立てる。

- 学習計画には、①1年にわたる長期的なもの
②学期ごと、夏休みなどの中期的なもの
③1週間、1日の短期的なもの

などがあります。

また、テストの前に、1～2週間程度の計画を立てることも必要です。

学習計画を立てると、授業や家庭学習に取り組むときに迷うことはありません。

自分の学習目標と関連させて、じっくり考えて学習計画を立て、強い意志でやり遂げていきましょう。

(3) 学習の成果を確かめる。

学習の結果、成績などを集計し、グラフに表すなどして自分の歩みをたえず確かめておきましょう。そして、それまでの学習の良かった点、改めなければならない点などを明らかにし、その後の学習方法の改善に努めましょう。

(4) 学習方法や学習する環境に変化を持たせる。

「得意教科の宅習をした後、不得意教科の宅習に取り組む。」「似たような教科の宅習を連続させて行わない。」「本を読む、書いて覚える、などの学習を組み合わせる。」「机の周りを片付けてから勉強する。」「たまには部屋の模様替えをする。」など、学習の方法を工夫したり、学習する環境に変化を持たせたりすることで、学習するやる気が出てくるものです。学習計画も時々見直して、修正を加えましょう。



2. 授業に集中しよう。

授業がどれほど大切なものであるかということは、すでに小学校の学習で理解していることだと思います。

学習の効果を上げるには、授業に臨む意欲を高め、基本的な学習態度を身につけることが大切です。

次の点に注意して充実した学習ができるように心がけましょう。

- ①授業に集中する。他のことを考えない。
- ②学習のねらい、大体の内容、学習の方法をつかむ。
- ③聞く、書く、考える、話し合う、調べる、などの活動のけじめをつける。
- ④積極的に発言したり、質問したりする。

3. 家庭学習を継続して取り組もう。

- (1) 帰宅したら、まず復習、次に宿題、そして予習という手順で行うのが最も良いと考えられています。
- (2) 能率をあげるためには、毎日同じ時刻に、同じ場所で、同じ勉強をする習慣を身につけることが大切です。
- (3) 一日のスケジュール、一週間のスケジュールを立てて、継続して行うようにします。何よりも計画倒れにならないことです。
- (4) 宅習時間の目安は〈学年数＋1時間〉といわれています。しかし、ダラダラと長い時間、勉強しても意味はありません。大切なのは、どんな勉強をしたかです。宅習の量と質、どちらも充実させていきましょう。
- (5) 復習・宿題・予習、どれも普段使っている教科書・ノートを最大限に活用することが大切です。家に帰ってもまったく教科書・ノートをあけないことがないように。
- (6) 頭は使えば使うほど良くなります。勉強すればするほど効果は上がっていきます。
- (7) 無理して、生活のリズムを乱し体調を崩すことがないように。毎日の、生活のパターンを守って勉強することが大切です。
- (8) 予習とは、次の授業ではどういうことをするのか、そのために前もって知っておくことはないのか、を考えて取り組む学習です。予習を行うと、忘れ物をしたり、授業で今何をやっているのかを見失ったりすることはまずありません。また、予習をして授業に臨むと、授業に対しての興味もわき、学習の効果も次第に上がっていきます。しっかりと予習をして授業に臨む習慣を身につけましょう。

(9) 復習

できるだけ早く復習をすると、学習した内容を記憶に留めておくことができます。テスト前にまとめて復習するよりも能率が良いのはこのためです。

復習はその日のうちにしなければ効果はありません。帰宅してかなり時間がたってからよりも、帰宅後すぐに、夕食前にするほうがよいでしょう。



4. 不得意教科を克服しよう。

みなさんの中には、国語が嫌い、理科が苦手だ、といった不得意教科のある人がいるかもしれません。中学校の勉強は、小学校の勉強の基礎の上に積み上げられていくものですから、一日も早く苦手意識を取り除き、不得意教科をなくしていくことが求められます。「ますます苦手」「ますます嫌い」「ますます不得意」になってからでは遅いのです。不得意教科を克服していくためにはどうすればよいのでしょうか。

(1)「僕は数学が弱い。」「私は社会ができない。」「どうせこれ以上やっても英語はダメだ。」といった自己暗示をかけないこと。「できる。」「今は苦手だけど、絶対得意になってみせる。」と強く思うこと、気持ちをコントロールすることは最も大切なことです。

(2) 不得意教科にこそ最も時間をかけること。

不得意教科の学習を他の教科の学習の間にはさんで、小刻みに何回かに分けて学習していく方法は効果があります。

(3) 基本を徹底して理解すること

難しい問題にいきなり取り組んでもよけいにわからなくなり、苦手意識が強まっていくだけです。基礎的な学習を徹底して行い、応用へと発展させていくことです。

国語は漢字の読み書きから。数学は $(-1) + (-1)$ から。英語は、ABCから。

(4) 頭と体をフルに使うこと。目で読み、手で書いて、口で唱える。基本事項を何回もくり返して学習し、身につけていきましょう。

(5) 自分の弱点を見つけること。

自分はどこがわからないかをはっきりさせ、できるように努力しましょう。

(6) 気分転換も大事

頭を一時切り換えることでひらめきが生まれてきます。能率が上がっていきます。

(7) 先生・友達に尋ねること

「わからないことをわからないままにしておく」ことから苦手意識はどんどん強くなり、不得意になっていきます。わからないことはどんどん質問していきましょう。ただし、答えだけ教えてもらっても、解き方・考え方が身につかないと、意味はありません。頼りすぎることは禁物です。

5. ノートの書き方を工夫しよう。

授業中に先生方が黒板に書かれたことを、ただ写すだけがノートの役割ではありません。授業で学んだことをもう一度復習し、テストの前に再度勉強するためのものです。つまりノートとは、自分で勉強するときに、「第2の教科書」となるものです。ですから、ノートを上手に使いこなせるようになれば、学習効果も何倍にもなるでしょう。

では、そのような素晴らしいノートを作るためにはどうしたらいいのでしょうか。次の事柄をしっかりと読んでノート作りの参考にしましょう。

(1) ノートは各教科に1冊ずつ、教科で指定されたノートを使いましょう。

例えば、国語には縦書き専用のノートがあり、英語には4本の罫線が13段・15段ある専用のノートを先生が指定します。

(2) 書くときだけではなく、後で見て活用することを考えて工夫しましょう。

(3) 書くときには、

①日付を必ず書く。

②濃い鉛筆を使う。(Hや2Hなど薄い鉛筆を使わない。)

③大きな字で、正確に書く。(漢字・記号等も正しく。)

④鉛筆だけでなく、ペンなども使ってわかりやすく書く。

(使いすぎるとかえってわかりにくくなるので注意する。)

(4) 黒板に書かれていること以外でも大切だと思えることはすすんでノートにまとめましょう。

- (5) 授業中に配られたプリントでノートに貼るように指示されたものは、必ずその日のうちにノートに貼りましょう。後で見返して復習に活用する習慣を身につけましょう。

6. 積極的に発表しよう。

一人一人の意見や考えをもとに、みんなで考えたり話し合ったりしていくことは、授業ではとても大切なことです。自分の意見を確かなものにし、みんなで考えていくことができるように、授業では積極的に発表しましょう。

また、自分の考えを発表する力は、これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜いていくためにも大切な能力です。授業の中で、また学校生活のあらゆる場面で、発表力・表現力を身につけていくようにしましょう。さらに、発表するだけでなく、友達の発表や先生の話・説明をしっかり聞くようにしましょう。

(1) 発表のしかた

- ①しっかり挙手する。
- ②指名されたら返事をする。
- ③いすの右側に立って発表する。
- ④みんなにしっかり聞こえるように、大きな声で発表する。
- ⑤語尾・文末までしっかり言う。



(2) 語型を身につけよう。

発表をする場合、基本的な語型を身につけていると、みんなにわかりやすい発表になっていきます。

①自分の意見、考えを言うとき

「・・・です。」「・・・だと思えます。」「・・・だと考えます。その理由は・・・だからです。」

②意見が同じだった場合

「〇〇君・〇〇さんの意見に同じです。」「僕・私も・・・だと思えます（考えました）。」

③意見が違うとき

「少し違います。」「それと似ています。」「他にあります。」「私の考えは・・・です。」

④付け加えるとき

「まだあります。」「〇〇君の意見に付け加えます。」

⑤反対意見を言うとき

「私・僕は〇〇さんの意見に反対です。」「私・僕は〇〇さんと違って、・・・という考えをもっています。それは・・・だからです。」

⑥考えているとき

「まだ考えています。(〇分、時間をください。)」

⑦質問が浮かんだとき

「質問があります。」「・・・とは、どういうことですか。」

⑧聞こえなかったとき

「聞こえなかったのでもう一度言ってください。」

7. テストを真剣に受けよう。

中学校では、日頃の学習（授業・家庭学習）の成果を確かめ、授業で学んだ内容や学習のしかたがどれくらい自分自身のものになったかを確かめるためにテストを行います。テストは定期テストと実力テストに分かれています。

(1) 定期テスト

1 学期の中間テスト・期末テスト、2 学期の中間テスト・期末テスト、3 学期学年末テストの計 5 回。テスト範囲は前もって示されます。また、授業の進み具合などによって自分でもある程度予想を立てることができます。テストの 1～2 週間前から計画を立て、自分の目標が達成できるように努力しましょう。

テストの点数だけでなく、授業の受けかた、学習のしかた、家庭学習の取組なども振り返ってみる反省材料にしていきましょう。

テストが終わった後は、間違ったところを訂正する。解き方のわからないところを先生や友達に聞いて確かめる。等、テスト反省をしっかりとやりましょう。

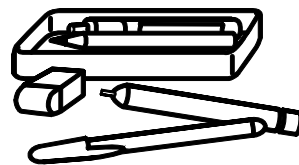
(2) 実力テスト

学年・年度によって異なりますが、1 年生で 1～2 回、2 年生で 2～3 回、3 年生で 3～4 回行われます。

範囲は特に示されません。それまでの学習のすべて、一人一人の実力が試されます。このテストによって、自分の実力がわかると同時に、自分で自分の学習状態を知ることができます。授業の受け方や家庭学習の取組などを反省し、これからの学習方法の改善に生かしていきましょう。

(3) テストの受け方・答え方 10 ヶ条

- ①テストに使用する学習用具を忘れない。(鉛筆・消しゴム・定規・コンパス・・・)
- ②用紙が配られたら、まず名前をきちんと書く。
- ③問題をしっかりと読む。
- ④読みやすいようにていねいに書く。
- ⑤やさしい問題から解く。
- ⑥必ず読み返す。(誤字・脱字・書き落としはないか。)
- ⑦解答欄を間違えない。
- ⑧答え方に気をつける。(記号で答える場合。文末の結び方)
- ⑨空欄を残さない。必ず何か答える。
- ⑩最後まで精いっぱい、時間いっぱい取り組む。時間が余ったときには、何度も読み返し、確認する。



8. テストを日々の生活に生かそう。

(1) 個人票 (個票)・成績連絡票

テストが終わり、採点・集計がすんだら個票が配られます。

- ①個票は自分の学力を知る大事な資料です。しっかりと成績連絡票に貼り、大切に扱きましょう。

成績連絡票は 3 年間使います。紛失・破損のないように保管しましょう。

- ②得意な教科、不得意な教科、学習の効果が上がっている教科・伸び悩んでいる教科など一つ一つ比べてみたりして、授業の受け方や家庭学習の取組方を反省し、翌日からの学習・次のテストへの取組に生かしましょう。

- ③成績連絡票は家の人に必ず見せて、一言書いてもらいましょう。

また、学習の結果、授業の受け方、家庭学習の取組などについて話し合い、アドバイスしてもらいましょう。

- ④個票に示される数値でその人が決め付けられることは決してありません。個票に示される数値は「自分で自分を知る」ためのひとつの手段であり、それがすべてではないのです。あわせて、テストの結果だけが学力ではないことも、十分理解しておいてください。テストに現れない、テストでは測ることのできない学力もあります。

むしろ、これからはテストで測れない力が大切になってきます。このことも、十分に知っておいてほしいことです。

学習の心得10ヶ条

1. 学習用具を忘れません。
2. 学習用具を大事に使用します。
3. 学習用具を毎日家に持ち帰ります。
4. 授業終了後、すぐ次の授業の準備をし、始業2分前には着席します。
5. 心を込めて元気よくあいさつします。
6. 真剣に授業に取り組み、すすんで挙手し、発表します。
7. 先生の話は目を見て聞きます。
8. ていねいにノートをとります。
9. 宿題は期限を守って提出します。
10. その日のうちに復習し、自宅学習に継続して取り組みます。



言語（国語－４時間，３年生は週３時間）

１ 学習のねらい

日本語を話す，聞く，読む，書くなどの学習に努め，よりよい言語生活へと生かす知識を身に付けましょう

２ 予習の仕方

次の時間に学習するところを**音読**する。そのときに難易語句や難読文字には鉛筆で線を引いておく。

３ 復習の仕方

- （１）その日の授業中にとったノートを別のノート（復習ノート）に書き直す。
- （２）新しく習った漢字の読み書きを１００字帳に丁寧に書いて覚える。

４ ノートのとり方

- * ノートは縦書きで書く。
- * 色ペンや定規を使って，丁寧な文字で美しいノート作りをこころがける。

５ テストに備えて

- * 漢字の学習は継続して取り組み，習った漢字は日常生活の中で積極的に使用する。

６ 書写

（１）学習のねらい

用具の扱い方や書写学習の進め方を身に付け，文字を正しく整えて書けるようになる。

（２）用具について

- ① 習字道具（すずり，筆，下敷き，文鎮）は小学校で使用していたものでよい。
- ② 習字紙と墨汁，書いた作品を載せる新聞紙を各自で用意する。
- ③ 硬筆学習用の鉛筆（Ｂ，２Ｂ）を用意しておく。

（３）注 意

- ① 墨の汚れは落ちないので特に注意する。
- ② 正しい姿勢で心を落ち着けて書く。

７ その他

- （１）読書に親しもう。
- （２）新聞を読む習慣を身につけよう。
- （３）国語に関する**作品展や検定などにすすんで挑戦しよう。**
- （４）掲示物（生徒の作品など）をよく見て，自分の作品や学習を振り返ろう。
- ◎ 授業中に使用する**中学生用の国語辞典を準備**しよう。



1 学習のねらい

広い視野に立って、日本の国土と歴史を学び、国際社会の一員として共に生きていくための基礎的教養を身に付けましょう。

2 予習の仕方

教科書を読み、出てきた**重要語句**（太字）などを自分で調べておくと、授業の内容の理解に役立ちます。分からないところは授業中に質問できるように努力する

3 授業の受け方

(1) 共通すること

- ① 学習のめあて（目標）をはっきりつかみ、先生の発問や説明を参考に、自ら積極的に考えを深める。
- ② 先生の説明や生徒の発表をよく聞き、予習でわからなかったところや、調べたことを確認する。
- ③ 板書事項はしっかりとノートに書く。
- ④ 授業中に分からなかったことがらは、その日のうちに解決できるように努める。

(2) 地理的分野で気をつけること（1・2年生）

- ① 授業で出てきた地名などは地図帳で必ず確かめる。
- ② グラフや統計を読みとる力は大事です。資料集などで学習を深める。
- ③ 地理学習に関連のある新聞記事やテレビ番組に、関心をもとう。

(3) 歴史的分野で気をつけること（1・2年生）

- ① 教科書の重要語句（太字）を年表と結びつけながら復習する。
- ② 歴史的事項を身につけるには、次のことをよく考えて学習をする。
ア いつ、どこで、だれが
イ 何をどのようにしたか
ウ なぜそうなったか（理由）
- ③ その年代の日本と世界の関わりについて、どんな状況であったかを考える。
- ④ 身近な地域や鹿児島県の歴史に関心を持つ。

(4) 公民的分野で気をつけること（3年生）

- ① 日頃からニュースに関心を持ち、自分なりの考えをもつように努める。
- ② 1・2年生の地理的分野・歴史的分野の学習をふまえて、情報を収集する力を身につけて、筋道を立てて説明できるようにする。
- ③ テストの反省をし、特に自分の不十分な点を補うため、1・2年の内容を繰り返し学習し、しっかりと復習しておく。



4 復習の仕方

教科書、ノートを中心にその日の授業を振り返り、学習のポイントは何かであったか、地図・統計・資料なども利用して確かめる。また、ノート・教科書の大切なところに印をしたり、書き落としたところを補充するなどして、ノートの整理をする。

5 ノートのとり方

- (1) 市販のノートを使用します。(B5サイズ)
- (2) 板書事項だけではなく、気づいたこと、考えたことも書くようにしましょう。
- (3) ノートの記載例

項 目	板 書 事 項	メモ欄
9 / 2 (水)	<u>地域をながめて</u> ①地形図を読もう →等高線・縮尺・地図記号 ②地形図から地域の変化を読み取る	(質問事項や関連事項を、気づいたこと考えたこと記入する)

6 テストに備えて

- (1) 教科書・ノート・プリント・宅習ノートなどを見直し、確かめましょう。
- (2) 重要語句(太字の人物・出来事・地図の位置などを含む)は、くりかえし音読したり、書いたりして覚えましょう。
- (3) 応用力をつけるために多くの問題に取り組みましょう。

1 学習のねらい

数学は、筋道をたてて考える学問です。数学を学ぶことによって筋道をたてて物事を考える力を養いましょう。

2 予習のしかた

- (1) 次に学習する内容をひととおり読んでみて、どんなことを学習するかをおおまかにつかむ。
- (2) 例題などは、説明を読みながら解き、分かるところ、分からないところをはっきり区別する。
- (3) 忘れている基本的事項(解き方・用語・公式)は、もう一度教科書やノート等で調べておくようにする。
- (4) 次の学習に必要な用具(三角定規・コンパス等)やプリント類は、確認しておくようにする。

3 授業の受け方

- (1) 学校の学習を大事にすべきことを念頭に置く。
- (2) 毎時間の学習課題をしっかりとつかむ。
- (3) 説明をよく聞き、要点をつかむ。
- (4) 答えを出すまでの過程を、ノートにきちんと記録する。
- (5) 疑問点は、なぜそうなるのか納得のいくまで質問し、理解するように努力する。



4 復習のしかた

- (1) その日の授業で学習した重要事項をしっかりと整理し、覚えるよう努力する。
- (2) その日の授業で学習した問題をもう一度自分で解いてみる。
- (3) 問題集を使っていろいろな問題を解いてみる。

5 ノートのとり方

- (1) 大学ノートか、方眼ノートを使用する。
- (2) ノートには黒板に書かれたことだけを写すのではなく、積極的に要点や疑問点等を書くように心がける。
- (3) 後で見直すときに見やすいように、ノートの書き方も工夫する。
(ノートを自分だけの参考書にしよう。)

※日付、教科書のページや問題番号が分かるように記入する。

4 / 6 (月)	(1) $4 \times 3 + 10 \div 2$	(2) $5a + 4b - 3a + 7b$
P 1 2 問 3	$= 12 + 5$	$= (5 - 3)a + (4 + 7)b$
	$= 17$	$= 2a + 11b$

6 テストに備えての学習のしかた

- (1) 教科書、ノート、問題集、既習のプリントは必ず復習する。
- (2) 時間に余裕があれば、他の問題集にも取り組んでみる。

7 その他

- (1) テストには、必ず定規・コンパスを準備する。
- (2) テストでまちがったところは、必ず自分でやり直しをする。
- (3) 数学が身の周りでどのように利用されているか、関心をもつ。

理 科 （週3時間 2・3年生は週4時間）

1 学習のねらい

理科の学習は、自然の仕組みを知ることが目標です。なぜそうなるのか、どうしてそういう結果が出るのか、原因を筋道立てて考え、推理する力や予測する方法を学習する教科です。そのためには、常日頃から自然の事物・現象に興味をもち、問題を発見し、情報を収集・整理するなどの活動を通して、我々の生活に役立つものの見方、考え方を養うことが必要です。また、科学的なものの考え方をすることにより、実生活の中でもつまらないことに振り回されたり、とんでもないことを信じたりすることを避けることができます。

基本五ヶ条

- (1) いつも観察する注意深い目を持つ。
- (2) 「なぜ・なに」の小さな疑問を持つ。
- (3) 自分の手・目・頭を使って体験し、確かめよう。
- (4) 筋道を立てて考えることができるようになる。
- (5) 用語や原理・原則、公式を正しく覚えよう。

2 授業の心得

理科の学習では、結果としての知識を得ることと同時に、課題をもって自然を調べ、それを解決していく過程、つまり観察・実験が非常に大切になってくる。そのために、次のことを実行するよう心がけてほしい。

- (1) 「何を学習するのか」 その時間の目標をつかむ。
- (2) 観察・実験では
 - ① 目的や方法を確認し、結果を予想する。
 - ② 実験開始とともに、机の上をきちんと整理し、記録に必要な用具以外は机の下に片付ける。（危険な実験の場合は、立って行うこともある。）
 - ③ 役割を決めて、全員が協力し合って積極的に参加する。
 - ④ 危険なこと、冗談は絶対にしない。
 - ⑤ 使用した器具類はすべて元の位置に片付ける。
 - ⑥ 分かったことは何かを考え、結果を記録する。
 - ⑦ 結果を発表できるように準備する。
- (3) 発表の時は、自分の考えをまとめておく。
- (4) ノートに分かったこと、大事なことを書く。
☆ ノートのとり方
 - ① 授業で配られたプリントは必ずのりで貼る。
 - ② 説明で大切なところは必ず書く。
 - ③ 大切なところは、すぐ目に入るように、蛍光ペン等を使って覚える工夫をする。
- (5) 疑問点や理解できないところがあったら、質問したり、自分で調べたりして、納得できるまで追求する。

3 家庭学習のしかた

- (1) 予習よりも**復習を重視**する。
- (2) 教科書を読んで習ったことを確かめる。
- (3) その日の授業で学習したところのノート・教科書を読み返し、要点（用語、原理・原則、公式）などを理解し、覚える。
- (4) ノートを見直し、授業で学習したところを確認して足りないところやまちがいを書き直す。そのとき分からないところや疑問があったら、自分で調べたり、先生に質問したりする。
- (5) 難しい言葉は、何度も書いて覚える。

4 テストに備えての学習の仕方

- (1) 授業で学習したところの教科書やノートに目を通す。
- (2) 配られた単元プリントやノートの練習問題を、何度でもできるまで解く。
- (3) 要点について、一覧表を見ながら覚える。

5 発展的な学習として

テレビや新聞、インターネットなどの科学に関する情報には注目し、自分でも調べてみよう。

【例】

- ・オゾン層破壊，酸性雨，温暖化などの環境問題
- ・燃料電池，原子力，ロケット，DNA組み換え，新素材などの最先端科学
- ・日食，流星群，恒星，惑星，衛星，隕石，彗星などの天体関連
- ・地震，火山爆発，津波，台風などの災害関連
- ・化石，新生物発見，恐竜絶滅，レッドデータブックなどの生物関連
- ・移植手術，人工臓器，エイズ，難病などの人体関連
- ・石油精製，さび，爆発などの化学実験関連
- ・アインシュタイン，キュリー夫人，ガリレオ，田中耕一さんなど科学の進歩に貢献した人々の実績
- ・UFO，UMA，超能力などの存在を科学的に考えてみる。

1 学習のねらい

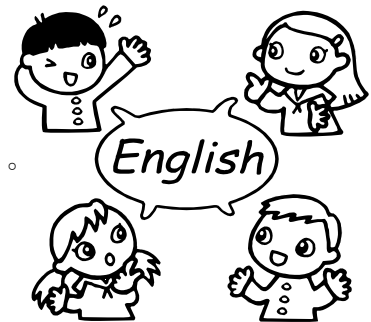
グローバル社会において、英語は欠かせない言語の一つです。他の国々の文化を知ることにより世界が広がります。授業でたくさんの表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができるようになりましょう。

2 予習の仕方

- (1) 教科書を読んで、どのような内容を学習するのか考えてみる。
- (2) わからない単語や語句を、辞書などで調べてノートに書く。
- (3) 外国の文化に関する内容や語句が出てきたら自分から調べてみる。

3 授業の受け方

- (1) 宿題や予習は、しっかり終わらせて授業に臨む。
- (2) 学習活動には積極的に参加する。
- (3) 先生またはCDによる発音や文の読み方に注意して聴く。
- (4) 単語や文を読む時は、大きな声で読む。
- (5) 間違いを恐れずに自分から英語で話す努力をする。
- (6) ノートは丁寧な字で書く。



4 復習の仕方

- (1) 暗唱できるまで、その日に学習した英文を何回も音読する。
- (2) ワークブックを用いて、その日に学習したことを復習する。
- (3) 学習した英語を使って、自分で表現してみる。

※英語の宅習帳は毎日取り組みましょう。毎日の積み上げが大きな力につながります。

5 その他

- (1) 授業で学習したことを使って、ALTの先生と英語で会話をしてみよう。
- (2) テレビやラジオなどの英語番組を積極的に活用しよう。
- (3) 英語検定に挑戦してみよう。(年3回実施されます。)

※2016年度の日程

	一次試験	二次試験
第1回	6月10日(金)	7月10日(日)
第2回	10月7日(金)	11月6日(日)
第3回	1月20日(金)	2月19日(日)

※5級：中学1年生修了程度/4級：中学2年生修了程度/3級：中学3年生修了程度

※5級と4級は一次試験(筆記試験)のみです。3級は一次試験合格した後、二次試験(英語での面接試験)を受験します。

- (4) 毎年、2学期に英語暗唱大会・弁論大会が行われます。積極的に挑戦してみよう。
(詳しい内容は後日発表されます。)

音 楽 (週 1～2 時間)

1 学習のねらい

楽しく歌を歌ったり楽器を演奏したりしながら、音楽を味わい親しむことにより、音楽性を伸ばし、豊かな心を育みましょう。

2 授業の受け方

(1) 準備

- ① 学習用具を忘れず、1 時間 1 時間を大切にして意欲的に授業に参加する。
(学習用具 → 教科書 (音楽・器楽)・ノート・リコーダー・ファイル 筆記用具)
- ② 教室移動を早めにすませ、歌やリコーダーの復習をして授業の始まりを待つ。

(2) 歌唱

- ① 歌詞を読んで情景を想像したり、範唱を聴いたりして曲の雰囲気をつかもう。
- ② 姿勢や口形、発声や響きに気をつけて楽しく歌おう。

(3) 器楽

- ① リコーダーの指使いを覚えよう。分からない音は、器楽の教科書の運指表で確かめ、美しい音色を出すよう心がけよう。

(4) 鑑賞

- ① 「鑑賞のポイント」に注意し、静かに鑑賞しよう。
- ② 楽器の音色に注意し、情景を想像しながら聴こう。
- ③ 作曲者や曲の形式、演奏形態などについて調べよう。

3 音楽ノートの使い方

- (1) 鑑賞した曲について、気付いたことや感じたことを自由にまとめよう。
- (2) 音楽用語などの板書事項をまとめよう。

4 テストに備えて

(1) 実技テスト

授業の中で、実技テスト (歌やリコーダーのテスト) を行うので、歌詞を覚えたり、止まらずに演奏したりできるように努めよう。

(2) 期末 (筆記) テスト

授業の復習をしっかりし、楽典に関すること、曲想の作り方など覚えておこう。



美術（週1～2時間）

1 学習のねらい

今までみなさんが「図画工作」の名で親しんでいた教科は、これから「美術」という教科になります。

「美術」は人間の個性に深く根ざしているものです。だから美術に一生懸命取り組んでいると、自然に自分というものが見えてきます。美術を通して新しい自分を探してみてください。

2 美術の領域

（1）表現と鑑賞

美術には「表現」と「鑑賞」という二つの活動がある。

- ・「表現」…自分が見たり考えたりしたことをもとに、作品を作ること。
- ・「鑑賞」…自分や他の人の作品を見て、感じたり考えたり調べたりすること。

（2）四つの領域

中学校では主に次の二つの領域を学習する。

① A表現 ② B鑑賞

A表現では具体的に以下の活動を行う。

- ・「絵画」…絵を描く。（スケッチ、風景画や人物画、版画など）
- ・「彫刻」…立体にする。粘土や木材、石などを彫って作る。）
- ・「デザイン」…ポスターやイラストを描く。文字や色などの勉強もする。
- ・「工芸」…石や木、金属などを使って生活の中に役立つ物づくりをする。

B鑑賞では鑑賞活動などを通して、作品や作家について考えたり、学んだりする。

3 学習の心構え

（1）授業の受け方や注意すること

① 忘れ物をしない。

その日の授業で必要なものは、前の日までに準備をしておく。もし忘れた時は、授業が始まる前に先生に届ける。。

② 授業に遅れない。

美術室への移動は休み時間中に完了する。時間を大切にし、決して遅れないようにする。もし、何か理由があって遅れた場合、必ず先生に届ける。

③ 授業の前に準備をする。

授業の前の休み時間を有効に使う。美術室に来室したら道具を出し、制作の準備を行う。

④ 私語をせず、授業に一生懸命取り組む。

⑤ 片付けまでしっかり行う。道具や机、水道なども大切にすること。

⑥ 提出物などの期日を必ず守る。

（2）授業以外で心がけること

① できるだけ美術館や展覧会に出かけ、いろいろな作品を鑑賞すること。

② 画集や作品集をたくさん見て、作品や画家について知ること。

③ 身のまわりの自然や風景の美しさ素晴らしさに目を向けること。

④ 授業で制作が遅くなったら、家で仕上げるなど、遅れを取り戻すように心がけること。

4 テストについて

美術では学期に一回テストを行う。授業で学習した内容がきちんと身に付いているか確かめることがねらいである。普段の授業に集中し、大切なことを聞き逃さないようにすること。テスト前は、教科書や資料集などをよく読んで学習すること。

5 その他

(1) 使う道具の管理

美術ではいろいろな道具を使う。教科書や資料集，クロッキー帳やスケッチブック，鉛筆，水彩絵の具，ポスターカラー，彫刻刀などいろいろなものがある。使う道具は事前に連絡があるで，自分の道具は自分でそろえること。友だちや学校の道具を借りることのないようにする。また，3年間使うので，なくさないようにすること。



(2) 作品を大切にすること

出来上がった作品は，自分の作品も他人の作品も大切にすること。作品には作った人の思いがこもっている。壊したり，捨てたりすることのないようにすること。自分の作品の制作が終わったら，家に持ち帰り，飾ったり，活用したりするなど，大切に扱うこと。

保健体育 (週3時間)

1 体育学習について

(1) 体育学習のねらい

- ① いろいろな運動に親しみ、運動の知識や技能を身に付け、将来、スポーツを通して明るく楽しい生活ができるにしましょう。
- ② 自分の関心や体力・運動能力の程度に応じていろいろな運動を選び、自分の目標をたて、それを達成できるように努力しましょう。
- ③ 体力・気力の向上を目指すとともに、公正な態度や規則を守り、協力して責任を果たす態度を身に付けましょう。

(2) 始業前

- ① 教科連絡係は前日に教科担任と連絡を取り、準備などを全員に知らせること。
- ② 更衣は所定の場所で素早く行い、衣服はきれいに整理すること。
- ③ 体育服の上着は、短パンの中に必ず入れ、身なりを整えること。
- ④ 見学者は、生徒手帳に保護者及び学級担任の印をもらい、休み時間中に教科担任から許可を得ること。
- ⑤ 係は授業の準備をすませ、チャイムが鳴る前に全員集合すること。

(3) 授業中の活動及び心得

- ① 集合・あいさつ、出欠状況の報告、健康観察
ア 保体部長はクラスの出欠状況を報告する。
- ② 準備運動、補強運動
ア 準備運動は全体や単位によってはグループごとに実施する。
イ 補強運動はグループごとに目標を達成するために行い、自分の能力に応じて、質や量を工夫する。
ウ 常に安全に心がけ、効率よく全力で実施する。
- ③ 本時の活動
ア ねらいを達成できるように努力する。
イ 互いに協力しながら取り組む。
- ④ 整理運動、反省・評価、あいさつ
ア 全体グループで整理運動をする。
イ グループノートや個人カードに反省や評価を記入する。
ウ 次時の目標や課題を考える。



(4) 授業後

- ① 手足を洗い、汗をふき取り、うがいなどを行う。
- ② 急いで更衣をし、次の授業に遅れないようにする。

2 保健学習について

(1) 保健学習のねらい

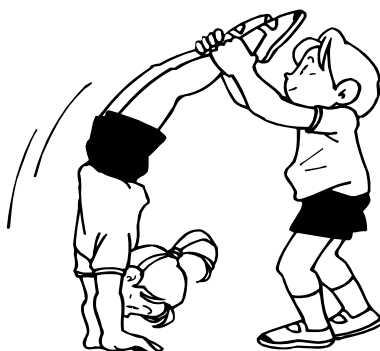
健康に関する知識を理解し、健康で安全な生活を送ることができるようにしましょう。

（２）授業中の活動及び心得

- ① 授業では，学習のねらいを理解し，意欲的に取り組む。
- ② いろいろな記事や統計資料を収集しておき，健康学習に活用する。
- ③ 授業で学んだことが日常生活に生かせるように努める。

３ 本校の授業内容

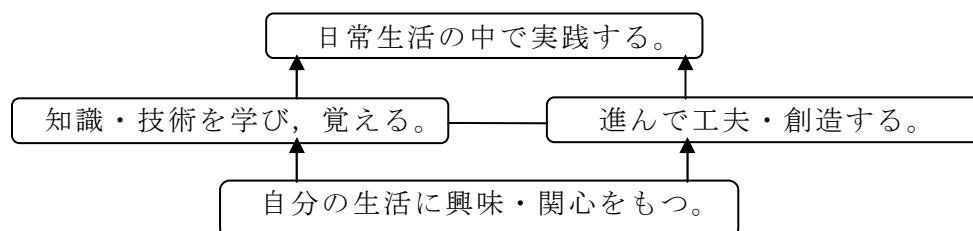
	1 学期	2 学期	3 学期
1 年	体育に関する知識 新体力テスト，集団行動 球技 男子：ソフトボール 女子：バレーボール 水泳，保健	陸上（短距離・リレー） 武道，ダンス 器械運動 陸上（長距離） 保健	球技，保健
2 年	体育に関する知識 新体力テスト，集団行動 球技 男子：バレーボール 女子：ソフトボール 水泳，保健	陸上（短距離・リレー） 武道，ダンス 器械運動 陸上（長距離） 保健	球技，保健
3 年	体育に関する知識 新体力テスト，集団行動 球技（選択） 水泳，保健	武道，ダンス 器械運動 陸上（長距離） 保健	球技（選択），保健



技術・家庭 (週2時間)

1 学習のねらい

生活に必要な知識と技術を学び覚えながら，家庭生活や社会生活との関係を知り，進んで工夫し，よりよく生活しようとする実践的な態度を育てます。



2 学習の仕方

(1) 予習

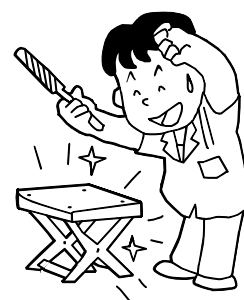
- ① 教科書を読み，内容を確認し，分からない用語には印をつけておく。

(2) 準備

- ① 学習用具，実習材料・道具を忘れない。
- ② 実習の時は，安全で効率よく学習するため，指示された服装をする。
- ③ 各係は，休み時間に必要な用具・工具・材料・資料等の準備を行う。

(3) 授業の流れ

- ① 課題意識をもつ。
↓「なぜ，こうなるのかな。」「これがわかればいいな。」「これをやってみたいな。」
- ② 課題を設定する。
↓「何がわかればよいのか。」「何について調べるのか。」
- ③ 課題の解決方法を予想する。
↓「どんな手順でとり組めばよいのか。」「どんな手だてがあるのか。」
- ④ 意見を交換し，話し合い，考えを深める。
↓「こんなこともあるよ。」「そんな意見もあるね。」
「どうしてこうなったのかな。」「こうなるね，やってみようか。」
- ⑤ 課題を解決し，実践してみる。
↓「わかった。」「できた。」
- ⑥ 実践の結果を反省・評価する
「うまくいったな，できたな。」「なるほどそうだったのか」
「失敗したな，どうして?」「次はこうしてみよう!」



- ★ 技術・家庭科は総合的な力の問われる教科です。他教科で学んだ内容を生かしながら学習を進めることによって深まりが強くなります。
- ★ 日常生活の中でどのように生かすことができるか常に考えるようにしましょう。

(4) 実習学習

① 安全

- ア 機械・器具は，正しい姿勢で取り扱うこと。
- イ 異常が発生したらすぐ先生に知らせること。
- ウ 火気や換気に注意して，明るい場所で実習すること。

② 能率

ア 計画をしっかりと立て、協力して実習に取り組むこと。

③ 整理・整頓

ア 材料・用具・機器などを取り扱う際は、事前に手をよく洗うこと。

イ 作業台の上には、必要のないものは置かないようにすること。

ウ 常に片付けながら実習し、作業中は手元から目を離さないようにすること。

④ 作品の完成

ア 作る楽しさ、できた喜び、生活に役立てるうれしさを味わえるようにすること。

イ 課題学習は、時間内に自分の力でやり遂げるように努力すること。

ウ 課題が終わらなかった時は、その日のうちに済ませよう努力すること。

(5) 後始末

① 分担された仕事は、責任をもって最後まで行うこと。

② 工具・器具・機械などは、決められた場所に整理すること。

③ 作業台や床は掃除し、ゴミ・くずは決められた場所に分別して捨てること。

④ スイッチ・元栓・かぎがきちんと閉められているか確認すること。

3 日常生活での実践

(1) 学習したことは、自分の家族の日常生活の中で活かすよう心がけること。

(2) よりよい生活のために、工夫・創造しながら実践していくこと。

(3) 生活の中で実践してみて、疑問に思ったこと・気づいたこと・分かったことなどは常に記録しておくこと。

4 テストの受け方

(1) 教科書を中心に、ノート・学習カードを利用して復習に努めること。

(2) 実習を通して学習した基礎知識・技術力を教科書の内容とのつながりを考えて再確認するように心がけること。

